

# 韓国の高校の日本語教科書における授受動詞

金 昌 男\*

---

## 目 次

---

1. はじめに
  2. 考察方法と資料
  3. 考察および分析
    - 3.1 授受動詞の分布状況
      - 3.1.1 本動詞の場合
      - 3.1.2 補助動詞の場合
    - 3.2 授受動詞の頻度数
      - 3.2.1 本動詞の場合
      - 3.2.2 補助動詞の場合
    - 3.3 授受動詞の活用形式
      - 3.3.1 本動詞「あげる」「さしあげる」「もらう」形式
      - 3.3.2 補助動詞「～てやる」「～てあげる」形式
      - 3.3.3 補助動詞「～てくれる」「～てくださる」形式
      - 3.3.4 補助動詞「～てもらう」「～ていただく」形式
  4. まとめ
- 
- 

## 1. はじめに

日本語の授受動詞は一般に「やる」「あげる」「さしあげる」「くれる」「くださる」「もらう」「いただく」の7種類が挙げられるが、韓国語との対照から考えると、「くれる/～てくれる」「くださる/～てくださる」に対しては韓国語にもこれらに一致するものが存在するが、「～てもらう」「いただく/～ていただく」に対してはこれらに一致するものが存在しない。

---

\* 金剛大学校, 助教授, 日本語学

い。また、韓国人の日本語習得状況及び誤用をみると、「くれる/～てくれる」「くださる/～てくださる」に比べて「～てもらう」「いただく/～ていただく」の習得が遅いのみでなく、誤用も多くみられる。

本稿では、先述した7種の授受本動詞と授受補助動詞について、現在韓国の高校で使用されている日本語教科書を資料とし、それぞれのチャプター別分布状況と頻度数、また活用形式を中心に考察を行う。

## 2. 考察方法と資料

考察方法については、韓国の第7次教育課程により改編された6種(12冊)の高校の検定日本語教科書から集めた授受動詞の用例を中心に、授受動詞の各教科書のチャプター別分布状況と教科書別頻度数を考察する。また教科書別にどの活用形式が多く取り上げられているかを考察する。

考察に使用した資料は以下の6種、I・II合わせて12冊の教科書である<sup>1)</sup>。なお、本稿における各教科書の表記は記述の便宜上、左記の略語で表すことにする。

- ・「大韓Ⅰ」：김숙자・이경수 외2인(2002)『고등학교日本語Ⅰ』대한출판사
- ・「大韓Ⅱ」：김숙자・이경수 외2인(2003)『고등학교日本語Ⅱ』대한출판사
- ・「志学Ⅰ」：김효자・박재환 외1인(2003)『고등학교日本語Ⅰ』지학사
- ・「志学Ⅱ」：김효자・박재환 외1인(2003)『고등학교日本語Ⅱ』지학사
- ・「天才Ⅰ」：양순혜・이원복 외2인(2003)『고등학교日本語Ⅰ』(주)천재교육
- ・「天才Ⅱ」：양순혜・이원복 외2인(2004)『고등학교日本語Ⅱ』(주)천재교육
- ・「進明Ⅰ」：유길동・여선구 외2인(2002)『고등학교日本語Ⅰ』(주)진명출판사
- ・「進明Ⅱ」：유길동・여선구 외2인(2003)『고등학교日本語Ⅱ』(주)진명출판사
- ・「教学Ⅰ」：이봉희・김남익(2003)『고등학교日本語Ⅰ』(주)교학사
- ・「教学Ⅱ」：이봉희・김남익(2004)『고등학교日本語Ⅱ』(주)교학사
- ・「ブラックⅠ」：한미경・津崎活一 외2인(2002)『고등학교日本語Ⅰ』블랙박스
- ・「ブラックⅡ」：한미경・津崎活一 외2인(2003)『고등학교日本語Ⅱ』블랙박스

1) 韓国の第7次教育課程により改編された高校の検定日本語教科書は12種あるが、12種のうち『日本語Ⅰ』と『日本語Ⅱ』両方とも検定を受けたものは6種のみであり、今回はこの6種(12冊)のみを考察の対象とした。

### 3. 考察および分析

#### 3.1 授受動詞の分布状況

授受動詞の分布については本動詞と補助動詞に分けて考察する。

##### 3.1.1 本動詞の場合

まず本動詞が扱われているチャプターを教科書別にまとめると、以下の<表1>の通りである。

<表1>本動詞の分布状況

項目 \ 教科書種類 区分	教学		大韓		ブラック		志学		進明		天才	
	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II
やる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
あげる	-	-	-	8	-	-	-	6	-	5	9	-
さしあげる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-
くれる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
くださる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
もらう	8 11	8	-	-	-	2	-	-	9	5	9	-
いただく	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(表の数字は各動詞の用例が見つかったチャプターを指す。)

授受本動詞の分布状況については、<表1>にも表れているように動詞別及び教科書別に違いがみられた。「あげる」「さしあげる」「もらう」については6種の教科書のうち一つ以上で扱われている。それに対して「やる」「くれる」「くださる」<sup>2)</sup>「いただく」は6種の教科書のうちどの教科書でも扱っていない。具体的にみると、「あげる」<sup>3)</sup>については「大韓」「志学」「進明」「天才」で、また「もらう」は「教学」「ブラック」「進明」「天才」の4種の教科書で扱われている。それに対し、「さしあげる」は6種の教科書のうち「進明」のみ扱っている。

また、チャプター別分布について教科書別にみると、「あげる」については「大韓」ではII-8課、「志学」ではII-6課、「進明」ではII-5課とII-7課、「天才」ではI-9課で、4種のうち「天才」がもっとも早く扱っている。さらに「もらう」については、「教学」ではI-8課とI-11課、「ブラック」ではII-2課、「進明」ではI-9課とII-5

2) 「くださる」はその活用形式の一つである「ください」の例が多く見られたが、「ください」については分布状況だけでなく、意味分類なども詳細に考察する必要があると考えたため今回の「くださる」には含めないで別の論文で扱うことにする。なお、後で扱う授受補助動詞(「～てください」)の場合も「～くださる」に含めていない。

3) 本稿における「あげる」とは、今回調査対象としたすべての教科書で見つかった活用形式(例えば「あげます」「あげますよ」「あげませんか」など)を指し、他に「やる」「さしあげる」「くれる」「くださる」「もらう」「いただく」なども同じである。なお、このことは後で述べる補助動詞の場合も同様である。

課、「天才」ではI-9課で、「教学」がもっとも早く扱っている。

以上の結果から、「あげる」と「さしあげる」はどの教科書でも一つのチャプターでしか扱われていないのに対し、「もらう」に関しては「教学」では三つのチャプター、また「進明」では二つのチャプターで扱われていることがわかった。

### 3.1.2 補助動詞の場合

〈表2〉補助動詞の分布状況

項目 \ 教科書種類 区分	教学		大韓		ブラック		志学		進明		天才	
	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II
～てやる	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	10 11
～てあげる	-	1	-	-	-	-	-	3 5 6 9 10	-	6 10	11	3 6 7 10 11
～てさしあげる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
～てくれる	11	1 2 4 5 6 7 8	-	7 9 12	10	4 6 7 10	-	3 5 6 7 8 10	-	6 7 9	9	1 3 4 6 7 10 11
～てくださる	11 12	5 6 10	-	8 12	-	10	-	-	-	7	11 12	1 6 7
～てもらう	-	1 5 10	-	8	-	4	-	6 10	-	7	11	2 10
～ていただく	-	4	-	6 10 11	-	-	-	-	-	7	-	-

(表の数字は用例が見つかったチャプターを指す。)

上記の〈表2〉は授受補助動詞の分布を示したものであるが、その結果を見ると、動詞別または教科書別にその差が大きいことがわかる。

まず動詞別傾向をみると、6種すべての教科書で扱われているものもあれば、一部の教科書でしか扱われていないものもある。「～てくれる」と「～てもらう」は6種すべての教科書で扱われているのに対し、「～てくださる」は「教学」「大韓」「ブラック」「進明」「天才」の5種、「～てあげる」は「教学」「志学」「進明」「天才」の4種、「～ていただく」と「～てやる」はそれぞれ「教学」「大韓」「進明」の3種と「志学」「天才」の2種で扱われている。一方、「～てさしあげる」は6種のすべての教科書で全く扱われていない。

続いてチャプター別にみると、「～てくれる」については「天才」がⅠ-9課でもっとも早く扱っており、その次に「ブラック」がⅠ-10課、「教学」がⅠ-11課、「志学」がⅡ-3課、「進明」がⅡ-6課、「大韓」がⅡ-7課で扱っている。また扱っているチャプター数に関しては「～てくれる」は「教学」と「天才」では8チャプターでもっとも多くのチャプターで扱っている。その次に「志学」では6チャプター、「ブラック」では5チャプター、「大韓」と「進明」では5チャプターで扱われている。つまり、どの教科書においても「～てくれる」がもっとも早くから扱われており、また扱われているチャプター数ももっとも多かった。

また「～てあげる」については、「教学」「志学」「進明」「天才」の4種で扱われているのに対し、「～てやる」は「志学」と「天才」でしか扱われていない。さらにチャプター別傾向についても「～てあげる」が「～てやる」より多くのチャプターで扱われている。このことから、「～てあげる」が「～てやる」より取り上げられる場合が多いことが推測できよう。

以上、授受動詞のチャプター別分布について本動詞と補助動詞に分けて考察を行った。その結果、動詞によっては本動詞は扱わずに補助動詞のみ扱っている教科書もあることがわかった。具体的には、「やる」「くれる」「くださる」「いただく」について、本動詞は6種のすべての教科書において扱われていないが、補助動詞は「～てやる」は「志学」「天才」で扱われており、また「～てくれる」は6種のすべての教科書で扱われている。さらに「～てくださる」については「志学」を除いて5種の教科書で扱われており、「～ていただく」は「教学」「大韓」「進明」で扱われている。

つまり、「やる」「くれる」「くださる」「いただく」の四つの動詞については本動詞は扱わず補助動詞のみ扱っている教科書もあるが、習得の順序から考えると、先に本動詞の用法を十分に習得させてから補助動詞の用法を習得させた方が理解しやすいと思われる。したがって、教科書の構成においては、授受動詞は先に本動詞を取り上げてから補助動詞を取り上げた方が日本語学習者の理解を高めるのにより効果的であろう<sup>4)</sup>。

## 3.2 授受動詞の頻度数

授受動詞の頻度数について本動詞と補助動詞に分けて考察を行うことにする。

### 3.2.1 本動詞の場合

まず授受本動詞の教科書別頻度数を示すと<表3>の通りである。

4) 「久野由宇子 外3人(2000)『新文化日本語Ⅱ』」の授受動詞の取り扱いについて紹介すると、Ⅱ-24課では本動詞「あげる」「もらう」を、Ⅱ-25課では本動詞「くれる」を扱っている。またⅡ-28課では補助動詞「～てくれる」「～てもらう」「～てあげる」を、Ⅱ-29課では本動詞「くださる」「いただく」を、またⅡ-30課では補助動詞「～ていただく」「～てくださる」を扱っている。つまり、このテキストでは授受本動詞を取り上げた後で授受補助動詞を扱っているのである。

<表3>授受本動詞の場合

教科書種類 区分 項目	教学		大韓		ブラック		志学		進明		天才		合計	
	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II
	計		計		計		計		計		計		計	
やる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
あげる	-	-	-	1	-	-	-	2	-	1	1	-	1	4
さしあげる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
くれる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
くださる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
もらう	2	3	-	-	-	1	-	-	2	1	2	-	6	5
いただく	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	2	3	-	1	-	1	-	2	2	3	3	-	7	10
	5		1		1		2		5		3		17	

(表の数字は用例数を指す。)

上記の<表3>は授受本動詞の頻度数を示したものである。その例が見つかった「あげる」「さしあげる」「もらう」についてみると、「あげる」については「大韓」「志学」「進明」「天才」で扱われている例が計5例あり、また「さしあげる」は「進明」のみで1例挙げられている。さらに「もらう」については「教学」「ブラック」「進明」「天才」で計11例を扱われている。つまり、授受本動詞については七つのうち三つの動詞しか扱われておらず、またその用例数も少ない。したがって、日頃授受動詞が多く使用されているという点から判断すると、高校の日本語教科書で取り上げている授受本動詞の例があまりにも少ないのではないかと考えられる。

### 3.2.2 補助動詞の場合

授受補助動詞の教科書別頻度数をみると、以下の<表4>のようになる。

<表4>授受補助動詞の場合

教科書種類 区分 項目	教学		大韓		ブラック		志学		進明		天才		合計	
	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II
	計		計		計		計		計		計		計	

～てやる	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	7
	-	-	-	-	1	-	-	6	-	7	-	-
～てあげる	-	2	-	-	-	9	-	6	1	15	1	32
	2	-	-	-	9	-	6	16	-	33	-	-
～てさしあげる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
～てくれる	1	22	-	8	3	28	-	13	-	16	2	28
	23	-	8	-	31	-	13	-	16	30	6	115
～てくださる	2	3	-	2	-	11	-	-	-	3	8	12
	5	-	2	-	11	-	-	3	-	20	10	31
～てもらう	-	5	-	5	-	20	-	5	-	1	2	5
	5	-	5	-	20	-	5	-	1	7	2	41
～ていただく	-	2	-	13	-	-	-	-	-	1	-	-
	2	-	13	-	-	-	-	1	-	-	-	16
合計	3	34	-	28	3	59	-	28	-	27	13	66
	37	-	28	-	62	-	28	-	27	79	19	242

(表の数字は用例数を指す。)

<表4>の授受補助動詞の頻度数については動詞別にも教科書別にも大差を見せている。まず「～てやる」については、「志学」と「天才」で扱われているが、その例をみると、前者が1例、後者が6例で計7例しか扱われていない。また「～てあげる」については「教学」「志学」「進明」「天才」の4種で扱われており、その例は計33例で、その中で「天才」が16例ともっとも多く扱っている。それに対して、「～てさしあげる」は6種のすべての教科書で全く扱われていない。

次に、「～てくれる」については6種すべての教科書が扱っているが、その用例数は「ブラック」では31例、「天才」では30例とほぼ同じ用例を扱っているのに対し、「大韓」では8例ともっとも少なくなっている。

また「～てくださる」については「志学」を除いた5種の教科書が扱っているが、その例は「天才」が20例、「ブラック」が11例扱っているのに対し、その他の教科書ではごく少数(5例以下)の例しか扱っていない。

「～てもらう」については6種のすべての教科書で扱われており、その例は「ブラック」が20例ともっとも多いのに対し、「進明」では1例のみとなっている。また「～ていただく」については、6種のうち「教学」「大韓」「進明」の3種で扱われているが、その例は「大韓」が13例ともっとも多く、「教学」と「進明」は2例以下である。

以上、動詞別及び教科書別で扱われている用例数を考察してきたが、6種の教科書の合計をみると、動詞別には「～てくれる」が121例と最も多く、その次に「～てもらう」が43例、「～てくださる」が41例、「～てあげる」が33例、「～ていただく」が16例、「～てやる」が7例である。また、教科書別では「天才」が79例、「ブラック」が62例、「教学」が37例、「大韓」が28例、「志学」が28例、「進明」が27例で「天才」

がもつとも多い例を扱っている。

以上のことから、高校の日本語教科書における授受動詞の取り扱いについては動詞別あるいは教科書別にかなり異なることがわかった。

### 3.3 授受動詞の活用形式

授受動詞の活用形式については、調査の結果でその用例が見つかった動詞に限って考察を行う。つまり、本動詞は「あげる」「さしあげる」「もらう」と、補助動詞は「～てやる」「～てあげる」「～てくれる」「～てくださる」「～てもらう」「～ていただく」を考察の対象とする。

#### 3.3.1 本動詞「あげる」「さしあげる」「もらう」形式

<表5> 「あげる」「さしあげる」「もらう」の活用形式

教科書種類 区分 項目		教学		大韓		ブラッ ク		志学		進明		天才		合計			
		I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	計	
あげる	あげると	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	あげました	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	
	あげますから	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	
	あげた	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	
	あげようと思ったんですけど	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1
	計				1				2		1	1			1	4	5
さしあげる	さしあげます	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	
もらう	もらった	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	2	1	3	
	もらいたいですか	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	2	
	もらったんです	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	もらったそうですね	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	もらってください	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	
	もらってもいいですか、	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
	もらっていいの？	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	もらう予定だ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
計	2	3				1				2	1	2		6	5	11	

(表の数字は用例数を指す。)

<表5>は本動詞「あげる」「さしあげる」「もらう」の活用形式を示したものである。各動詞の活用形式を見ると、「あげる」については「あげると」「あげました」「あげますから」「あげた」「あげよう」の五つの活用形式が見られた。

その例を挙げると以下ようになる。

- (1)きびだんごをあげると、犬はもたろうといっしょに行くことにしました。(大韓Ⅱ-9)
- (2)友達に本をあげました。(天才Ⅰ-9)
- (3)では、薬をあげますから帰りにもらってください。(進明Ⅱ-5)
- (4)昨日学校の帰りに買っておいたプレゼントをあげた。(志学Ⅱ-6)
- (5)最近の日本の雑誌をあげようと思ったんですけど。(志学Ⅱ-6)

また「さしあげる」については、下例のように「さしあげます」の一つの形式しか見られなかった。

- (6)ええ、先生にさしあげます。(進明Ⅱ-7)

さらに「もらう」については、「もらった」が3例と最も多く、次に「もらいたいですか」が2例見られた。その他にも「もらったんです」「もらったそうですね」「もらってください」「もらってもいいですか」「もらっていいの?」「もらう予定だ」が1例ずつ見られた。

その例を挙げると以下の通りである。

- (7)このとけいはお父さんからもらった。(天才Ⅰ-9)
- (8)いくらもらいたいですか。(進明Ⅰ-9)
- (9)たんじょうびのプレゼントにももらったんです。(教学Ⅱ-8)
- (10)今回のスピーチコンテストで賞をもらったそうですね。(教学Ⅱ-8)
- (11)では、薬をあげますから帰りにもらってください。(進明Ⅱ-5)
- (12)このカード、もらってもいいですか。(教学Ⅰ-8)
- (13)うわー、かわいい。ほんとうにももらっていいの?(教学Ⅱ-8)
- (14)今週の木曜日には日本大使館へ行って、ビザをもらう予定だ。(教学Ⅰ-11)

### 3.3.2 補助動詞「～てやる」「～てあげる」形式

<表6> 「～てやる」「～てあげる」の活用形式

教科書種類 項目 区分		教学		大韓		ブラッ ク		志学		進明		天才		合計		
		I	Ⅱ	I	Ⅱ	I	Ⅱ	I	Ⅱ	I	Ⅱ	I	Ⅱ	I	Ⅱ	計
て や る	～てやろう	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	2	2
	～てやった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	2
	～てやらない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
	～てやりました	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
	～てやるよ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1

計								1			6		7	7		
く て あ げ る	～てあげた	-	2	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	7	7	
	～てあげました	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4	4	
	～てあげます	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	4	4	
	～てあげますから	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	3	3	
	～てあげたい/と思っています/です	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	2	1	4	5
	～てあげよう/てあげよう/と思います/思っている/思っているの	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	5	5
	～てあげたら	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	2
	～てあげるから	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1
	～てあげましょうか	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
	～てあげなさい	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
	計		2						9		6	1	15	1	32	33

(表の数字は用例数を指す。)

上記の<表6>は「～てやる」と「～てあげる」の活用形式を示したものである。

「～てやる」については、6種のうち「志学」と「天才」でしか扱われておらず、活用形式は「～てやろう」と「～てやった」がそれぞれ2例ずつ、その他の「～てやらない」「～てやりました」「～てやるよ」はすべて1例ずつ見られた。

それぞれの例を挙げると以下のものがある。

- (15) たててやろうと思います。(志学Ⅱ-7)
- (16) そこにパンが落ちているのを教えてやったのはほくだから、  
ほくのものだよ。(天才Ⅱ-11)
- (17) フンブよりも自分の弟を助けてやらないノルブのほうがもっと悪いと  
思います。(天才Ⅱ-10)
- (18) おかさんは子供のつめをきってやりました。(天才Ⅱ-10)
- (19) 私がそのパンを二つにわってやるよ。(天才Ⅱ-11)

次に「～てあげる」については「教学」「志学」「進明」「天才」の4種で扱われており、活用形式は「～てあげた」が7例ともっとも多く、続いて「～てあげました(4例)」「～てあげます(4例)」「～てあげますから(3例)」の順に表れている。今回の調査で見つかった「～てあげる」形式を1例ずつ挙げると以下ようになる。

- (20) すずきさんのかばんがとてもおもそうだったから持ってあげた。(教学Ⅱ-3)
- (21) おばあさんをつつだてあげました。(天才Ⅱ-6)
- (22) わたしが一週間、おさらを洗ってあげます。(天才Ⅱ-6)
- (23) 私が教えてあげますから心配することはありません。(志学Ⅱ-10)

- (24)日本語も習いたいし、韓国語もおしえてあげたいと思っています。(天才 I -11)
- (25)二人に好きな肉料理を作ってあげようと思っています。(志学 II -9)
- (26)じゃあ、ミンホ君がかばんもってあげたら。(志学 II -5)
- (27)いろいろなところを案内してあげるから。(志学 II -3)
- (28)わたしがこの手紙、出してあげましょうか。(天才 II -7)
- (29)冬休みにおかあさんの仕事を手伝ってあげなさい。(天才 II -11)

また、「～てあげる」については合計33例見られたが、その形式は10種類で、教科書別には「天才」が16例、「志学」が9例、「進明」が6例、「教学」が2例である。

3.3.3 補助動詞「～てくれる」「～てくださる」形式

<表7> 「～てくれる」「～てくださる」の活用形式

教科書種類 項目 区分		教学		大韓		ブラック		志学		進明		天才		合計		
		I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	計
て く れ る	～てくれませんか	-	1	-	1	-	4	-	-	-	6	-	12	-	24	24
	～てくれた	1	1	-	3	1	4	-	1	-	-	2	-	4	9	13
	～てくれて	-	-	-	-	-	1	-	3	-	8	-	1	-	13	13
	～てくれました	-	2	-	1	1	5	-	-	-	-	-	3	1	11	12
	～てくれる	-	2	-	-	-	1	-	2	-	1	-	3	-	9	9
	～てくれない	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	8	8
	～てくれたのに	-	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	5	5
	～てくれなかったの	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	5	5
	～てくれないと	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	4	4
	～てくれないんです	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	3	3
	～てくれたんです	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	～てくれれば	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	～てくれたのね	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	～てくれましたか	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	2
	～てくれたので	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2	2
	～てくれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	2
	～てくれますから	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1
	～てくれたのよ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	～てくれるわ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	～てくれるだけで	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
～てくれると思います	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
～てくれよ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
～てくれる (「～てください」の意)	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
～てくれても	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
～てくれたし	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
～てくれたが	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	

	～てくれたら	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1
	～てくれなかったんです	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1
	～てくれたい	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
	計	1	22		8	3	28		13		16	2	28	6	115	121
う て く だ さ る	～てくださいますか	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	11	7	11	18
	～てくださって	-	-	-	1	-	10	-	-	-	3	1	1	1	15	16
	～てくださった	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	3
	～てくださると思います	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	～てくださるようお願い ください	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	～てくださいました	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	～てくださいます	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	計	2	3		2		11				3	8	12	10	31	41

(表の数字は用例数を指す。)

<表7>は「～てくれる」と「～てくださる」の活用形式であるが、まず「～てくれる」についてみると、「～てくれませんか」が計24例と最も多く、その次に「～てくれた」と「～てくれて」がそれぞれ13例、「～てくれました」が12例、「～てくれる」が9例、「～てくれない」が8例、「～てくれたのに」と「～てくれなかったの」がそれぞれ5例、そして、その他の形式はすべて5例以下である。

また「～てくれる」を教科書別に見ると、<表7>にも表れているように、活用形式によっては特定の教科書に片寄っていることがわかる。例えば「～てくれる」形式のうち最も多く見られた「～てくれませんか」については「天才」では12例見つかったが、「志学」では1例も見つかっていない。さらに「～てくれました」については「教学」「大韓」「ブラック」では扱われているが、「志学」「進明」では1例も扱われていない。

「～てくれる」の例を各形式別の一つずつ挙げると次のようになる。

- (30)じゃ、あとで作り方を教えてくださいませんか。(ブラックⅡ-4)  
 (31)空港には佐藤さんが車でむかえに来てくれた。(ブラックⅡ-10)  
 (32)来てくれてありがとう。(志学Ⅱ-8)  
 (33)新しいけいたいを見せてくれました。(教学Ⅰ-8)  
 (34)だれか手伝ってくれる人いませんか。(天才Ⅱ-6)  
 (35)そのえんぴつ、かしてくれない?(天才Ⅱ-1)  
 (36)せっかきそってくれたのに。(教学Ⅱ-5)  
 (37)きのう、どうして電話してくれなかったの。(ブラックⅡ-7)  
 (38)もうすこし家計のことも教えてくれないと。(ブラックⅡ-7)  
 (39)おいしくないのかあまり食べてくれないんです。(志学Ⅱ-6)  
 (40)このまえ、ははがインターネットで買ってくれたんです。(教学Ⅱ-2)  
 (41)見に来てくれれば。(教学Ⅱ-4)

- (42)わざわざ来てくれたのね。(教学Ⅱ-6)
- (43)日本の友だちが何を紹介してくれましたか。(大韓Ⅱ-9)
- (44)ひろみさんが「おこのみやき」の作り方を教えてくれたので、(ブラックⅡ-4)
- (45)ほかのものにばけてくれ。(天才Ⅱ-11)
- (46)友だちが手伝ってくれますからだいじょうぶです。(進明Ⅱ-6)
- (47)みんなわざわざ迎えに来てくれたのよ。(教学Ⅱ-1)
- (48)すぐよろこんでくれるわ。(教学Ⅱ-4)
- (49)あなたが来てくれるだけで。(教学Ⅱ-4)
- (50)おじいさんとおばあさんはすぐよろこんでくれるとおもいます。(教学Ⅱ-4)
- (51)いっしょに持ってくれよ。(教学Ⅱ-1)
- (52)とってくれろ(「～てください」の意)。(教学Ⅱ-8)
- (53)一度ぐらいはしてくれてもいいんじゃない?(大韓Ⅱ-9)
- (54)おじいさんもおばあさんも親切にしてくれたし、(ブラックⅠ-10)
- (55)兄は「おいしい」といって食べてくれたが。(ブラックⅡ-4)
- (56)みがいてくれたら1000ウォンやるよ。(志学Ⅱ-5)
- (57)だれも食べてくれなかったんです。(志学Ⅱ-6)
- (58)マンガが勉強にもなることを母がわかってくれたらいいなとおもいます。(天才Ⅱ-10)

次に「～くださる」については、「～くださいますか」が18例もともと多く見られたが、この例はすべて「天才」の例である。つまり「～くださいますか」は6種の教科書のうち「天才」のみが扱っている。その次に「～くださって」は16例見られたが、これらは「ブラック」で10例見つかっており、さらに「～くださった」は3例ですべて「教学」で扱っている。以上のことから、「～くださる」の活用形式は教科書によってかなり異なることがわかった。

「～くださる」の例を1例ずつ挙げると以下のようなになる。

- (59)あしたわたしの家に来てくださいますか。(天才Ⅱ-7)
- (60)最後まで聞いてくださってどうもありがとうございました。(大韓Ⅱ-8)
- (61)教えてくださったおかげです。(教学Ⅱ-10)
- (62)いろいろ教えてくださると思いますよ。(教学Ⅱ-6)
- (63)電話してくださるようお伝え下さい。(教学Ⅱ-5)
- (64)先生が日本語を教えてくださいました。(ブラックⅡ-10)
- (65)次にj高校のみなさんが日本の歌を紹介してくださいます。(大韓Ⅱ-12)

3.3.4 補助動詞「～てもらう」「～ていただく」形式

<表8> 「～てもらう」「～ていただく」の活用形式

教科書種類 項目 区分		教学		大韓		ブラック		志学		進明		天才		合計		
		I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	計
く て も ら う	～てもらえませんか	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	20	20
	～もらった	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	5
	～もらいました	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	3
	～もらったの	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	～もらった名詞(おさ ら、CD)	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2	2
	～もらいましたか	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	2
	～もらったそうです	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	2
	～もらったんですよ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	～もらいたいんだけど	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	～もらいます	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	～もらいましたが	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1
	～もらったのに	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1
	～もらえたら	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1
	計		5		5		20		5		1	2	5	2	41	43
く て い た だ く	～ていただけませんか	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
	～ていただきたいんです が	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3
	～ていただきました	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	～ていただきます	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	～ていただけますか	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1
	計		2		13						1				16	16

(表の数字は用例数を指す。)

上記の<表8>は「～てもらう」と「～ていただく」の活用形式をまとめたものである。まず「～てもらう」をみると、「～てもらえませんか」が20例ともっとも多いが、この20例はすべて「ブラック」で見られたものである。つまり「ブラック」では「～てもらう」については「～てもらえませんか」形式しか取り上げていない。また「～てもらえませんか」は「ブラック」以外のどの教科書でも一切扱われていない。その他の形式はすべて5例以下で、「～もらった(6例)」は「教学」「大韓」「天才」で、また「～もらいました(3例)」は「天才」で、さらに「～もらったの(2例)」は「大韓」のみである。

以上のことから、「～てもらう」形式についても教科書によってかなり違っていることがわかった。

「～てもらう」の例を1例ずつ挙げると以下の通りである。

(66)みなさん、ちょっとつだってもらえませんか。(ブラックII-4)

- (67) 買ってきてもらった。(教学Ⅱ-5)
- (68) 子ともはおかあさんにつめを切ってもらいました。(天才Ⅱ-10)
- (69) 先生にスピーチの内容を直してもらったの。(大韓Ⅱ-8)
- (70) 実は、この前貸してもらったCDのことなんだけど…。(進明Ⅱ-7)
- (71) お医者さんに見てもらいましたか。(志学Ⅱ-10)
- (72) ええ、お母さんから新しいじてんじやを買ってもらったそうです。(天才Ⅰ-11)
- (73) あなたの写真を見せてもらったんですよ。(教学Ⅱ-1)
- (74) 金曜日に日本語のテストがあるからちょっと  
       教えてもらいたいんだけど。(教学Ⅱ-1)
- (75) 先生にスピーチの内容を直してもらいます。(大韓Ⅱ-8)
- (76) 父に新しい時計をかってもらいましたが。(志学Ⅱ-6)
- (77) お父さんに買ってもらったのに。(志学Ⅱ-6)
- (78) たくさんの人に食べてもらえたらいいなと思っています。(天才Ⅱ-10)

また「～ていただく」については「～ていただけませんか」が10例ともっとも多く見られたが、教科書別にみると「大韓」が8例、「教学」が2例である。その他にも「大韓」では「～ていただきたいんですが(3例)」「～ていただきました(1例)」「～ていただきます(1例)」が、また「進明」では「～ていただけますか(1例)」が見つかった。つまり、「～ていただく」形式は主に「大韓」で扱われており、「ブラック」「志学」「天才」では一切扱われていない。このことから、教科書による違いが明らかにみられる。

「～ていただく」の例を挙げると以下のようになる。

- (79) 明日、いっしょに見ていただけませんか。(教学Ⅱ-4)
- (80) ミンソクチョンについて教えていただきたいんですが。(大韓Ⅱ-11)
- (81) 山田先生から紹介していただきました田中と申します。(大韓Ⅱ-11)
- (82) 息子が紹介させていただきます。(大韓Ⅱ-11)
- (83) 日本料理を教えていただけますか。(進明Ⅱ-7)

以上、「～てもらう」と「～ていただく」の形式について考察してきたが、この種の形式は他の形式に比べて教科書別に差が大きいことがわかった。その理由としては、この種の形式はこれに一致する韓国語の形式がなく、韓国人日本語学習者にその習得が難しいため多くの教科書でこれらの記述を避けたものと考えられる。しかし、韓国人日本語学習者にその習得が難しい表現こそ、数多くの例を提示して正確に理解させる必要があるだろう。

## 4 . まとめ

以上、韓国の第7次教育課程により改編された6種(12冊)の高校の検定日本語教科書を資料とし、授受動詞のチャプター別分布と頻度数、また活用形式について考察した結果、以下のことがわかった。

第一に、チャプター別分布については、6種の教科書のうち一つ以上で扱われている本動詞「あげる」「さしあげる」「もらう」と補助動詞「～てやる」「～てあげる」「～てくれる」「～てくださる」「～てもらう」「～ていただく」などが教科書別にかなり異なることがわかった。

第二に、頻度数については、動詞別または教科書別にかなり異っており、6種のそれぞれの教科書の用例数から判断すると、補助動詞が本動詞より圧倒的に多く扱われていることがわかった。

第三に、活用形式については、動詞によってかなり差がみられた。6種の教科書の活用形式をまとめて示すと、本動詞の場合は「あげる」の5つの形式、「さしあげる」の1つの形式、「もらう」の8つ形式がそれぞれ見られた。補助動詞の場合は「～てやる」は5つの形式、「～てあげる」は10の形式が見られた。また「～てくれる」は29の形式、「～てくださる」は7つの形式が見られた。さらに「～てもらう」は13の形式、「～ていただく」は5つの形式がそれぞれ見られた。このことから「～てくれる」の活用形式がもっとも多く扱われていることがわかった。

以上のように、授受動詞のチャプター別分布と頻度数、また活用形式は動詞別または教科書別にかなり異っている。したがって、高校でどの出版社の教科書を使うかによって、学習できるものとできないものが生じることになる。これに関し、特に授受動詞のように比較的日常生活で使用頻度の高いものに対しては重要度を考慮して教科書別にあまり差がないように教科書の構成に十分に気を使うべきだと考えられる。

## 【参考文献】

- 上野田鶴子 (1978) 「授受動詞と敬語」 『日本語教育』 35号 日本語教育学会  
江田すみれ (1983) 「「てやる・てくれる・てもらう」とタイ語の表現-haiの用法をに注目して-」  
『日本語教育』 49号 日本語教育学会  
奥津敬一郎 (1996) 『拾遺 日本語文法論』 ひつじ書房  
柏崎雅世 (1993) 『日本語における行為指示型表現の機能』 くろしお出版  
菊地康人 (1996) 『敬語再入門』 丸善株式会社  
佐藤里美 (1992) 「依頼文-してくれ、してください-」 『ことばの科学 5』 むぎ書房  
田窪行則 (1997) 『視点と言語行動』 くろしお出版  
仁田義雄 (1988) 「意志動詞と無意志動詞」 『言語』 5月号 大修館書店  
山田敏弘 (2004) 『日本語のベネファクティブ』 明治書院  
森田良行 (1995) 『日本語の視点』 創拓社

### 《参考資料》

- 김숙자·이경수 외2인 (2002) 『고등학교 日本語 I』 대한출판사  
김숙자·이경수 외2인 (2003) 『고등학교 日本語 II』 대한출판사  
김효자·박재환 외1인 (2003) 『고등학교 日本語 I』 지학사  
김효자·박재환 외1인 (2003) 『고등학교 日本語 II』 지학사  
양순혜·이원복 외2인 (2003) 『고등학교 日本語 I』 (주)천재교육  
양순혜·이원복 외2인 (2004) 『고등학교 日本語 II』 (주)천재교육  
유길동·여선구 외2인 (2002) 『고등학교 日本語 I』 (주)진명출판사  
유길동·여선구 외2인 (2003) 『고등학교 日本語 II』 (주)진명출판사  
이봉희·김남익 (2003) 『고등학교 日本語 I』 (주)교학사  
이봉희·김남익 (2004) 『고등학교 日本語 II』 (주)교학사  
한미경·津崎活一 외2인 (2002) 『고등학교 日本語 I』 블랙박스  
한미경·津崎活一 외2인 (2003) 『고등학교 日本語 II』 블랙박스  
久野由宇子 外3人 (2000) 『新文化日本語 II』 文化外国語専門学校

## 要 旨

本稿では、日本語の授受動詞について、韓国の第7次教育課程により改編された6種(12冊)の高校の検定日本語教科書を資料とし、各教科書のチャプター別分布状況と教科書別頻度数、また活用形式を考察した。その結果、以下のことがわかった。

第一に、チャプター別分布については、6種の教科書のうち一つ以上で扱われている本動詞「あげる」「さしあげる」「もらう」と補助動詞「～てやる」「～てあげる」「～てくれる」「～てくださる」「～てもらう」「～ていただく」などが教科書別にかなり異なることがわかった。

第二に、頻度数については、動詞別または教科書別にかなり異っており、6種のそれぞれの教科書の用例数から判断すると、補助動詞が本動詞より圧倒的に多く扱われていることがわかった。つまり、動詞によっては本動詞は扱わずに補助動詞のみ扱っている教科書も多かったが、習得の順序から考えると、先に本動詞の用法を十分に習得させてから補助動詞の用法を習得させた方が理解しやすいと思われる。

第三に、活用形式については、動詞によってかなり差がみられた。6種の教科書の活用形式をまとめて示すと、本動詞の場合は「あげる」は5の形式、「さしあげる」は1の形式、「もらう」は8の形式が見られた。補助動詞の場合は「～てやる」は5の形式、「～てあげる」は10の形式が見られた。また「～てくれる」は29の形式、「～てくださる」は7の形式が見られた。さらに「～てもらう」は13の形式、「～ていただく」は五つの形式が見られた。このことから「～てくれる」の活用形式がもっとも多く扱われていることがわかった。

以上のことから、授受動詞のチャプター別分布状況も頻度数も、また活用形式も教科書別にかなり異っていることが明らかになった。したがって、特に授受動詞のように比較的日常生活で使用頻度の高いものに対しては重要度を考慮して教科書別にあまり差がないように教科書の構成に十分に気を使うべきだと考えられる。

キーワード：授受動詞、分布状況、頻度数、活用形式、本動詞、補助動詞、  
高校の教科書

투 고 : 2007. 8. 31  
1차 심사 : 2007. 9. 8  
2차 심사 : 2007. 9. 29

住 所 : (320-931)충남 논산시 상월면 대명리 14-9

電 話 : 041-731-3455

e-mail : cnkim42@hotmail.com